の魅力や暮らしを知ること」をテーマにスタートした「アシカガアートクロス」の第4回が5月13日から市内東部地区の3会場で開幕する。拠点となる大久保分校スタートアップミュージアム（OBSM）では関連企画も行われる。

アートクロスは2018年、街並みの魅力や歴史・文化を生かし、来訪者に足利の魅力を発見してもらい観光振興や商業振興につなげていこうと始まったアートイベント。これまで市内中心部の古民家などを会場に開催してきたが、昨年、大久保町にOBSMが開館し東京方面のアーティストが集う場にもなりつつあることから、東部エリアの魅力も発見してもらおうと会場を設定した。

会場はOBSM、山川町の山川長林寺、助戸町の旧木村輸出織物工場・旧木村淺七邸。出品作家はOBSMディレクターの秋山佳奈子さん、OBSMオープン時を作品展示で飾った金子未弥さんや林朝子さん、やあべそいさん、速水一樹さん。速水さんの展示は先行してOBSMで現在行われている。

関連企画として「ヤギPoo陶芸プロジェクトin足利ヤギのニーニとメェメェ陶芸」「文星芸術大学空き家再生プロジェクト展示」「シルクスクリーン体験ワークショップ」（会場はいずれもOBSM）が予定されている。

アートクロス開催に向け、OBSMで準備作業が進行中

今回の拠点と

会場となる建物の歴史を大事にし、その魅力をアートで引き立てようと、それぞれの作家が関係者から聞いた話をモチーフとした作品を展示するのが、今回の大きな特徴の一つ。

60年ぶりの稚児行列

薬師寺が花まつりで実施

足利市川崎町の薬師寺（石川将隆住職）で恒例の花まつりが4月16日に開かれた。今回は約60年ぶりに「稚児行列」を実施。同町の川崎天満宮から同寺までの約400㍍をかわいい衣装をまとった24人の子どもたちが歩き、家から出てきた近隣住民からも「かわいいね」と声を掛けられていた。

約60年ぶりに行われた薬師寺の稚児行列

同寺では新型コロナウイルス禍で人と人との接点が希薄になった現状を考慮し、昨年12月にはワークショップを開くなど「寺としてできること」を考えており、今回の稚児行列実施もその方針の一環。

稚児行列には地元はもとより佐野市や太田市、館林市などからも参加。父母や祖父母と一緒にコースを歩いていた。市内から参加した子どもの保護者の一人は「おじいちゃんに思い出になるから参加してみればと勧められました。本当にいい思い出がつくれたと思います」と話していた。

同寺到着後は稚児加持を受け、花御堂の誕生仏に甘茶を掛けてから全員で記念撮影。また、同寺駐車場にはカラフルな車体のキッチンカーが並び、ラーメンやスイーツなどを販売。近隣住民から「お寺とは思えない光景。でも楽しい」との声も聞かれた。

このほか、ヨガや寄せ植え、ベジタブルバスケットなどのワークショップ、大道芸や昔遊びなどのイベントも行われ、お寺で一日、のんびりと過ごす家族連れもいた。

足利
第38回
つどい
の午前
のコム
ッピン
かれる
え、今
発表も

同ま
の向上
実を目
から開
どの益

5月
中は無
場時間
後5時
会場で
ランテ
いる。
あしか
務局へ
bo.m
@gm
アート
コム
足利文

次